

「ニッポンの家」は本物の素材を選ぶ



「の安心感が、無垢材の家に暮らすことなんだ、と、毎日実感しています。最高の贅沢ですね」

「わが家が愛おしくてたまらない、といった様子でそう話すのは、神奈川県に暮らすSさん夫妻。天井は上質な杉板張り、床や建具は木目の美しいタモ材。北海道産の無垢材をふんだんに使ったS邸では、本物の木の香りと風合いがいちばんの主役です。」

「素足になって床を歩く。壁や柱に触れる。障子の引き手に指をかける。そのたびに、本物の木がもつ優しい温もりが感じられ、豊かな気持ちになるのだと話します。」

「外出先から帰ってきて、玄関をあけた瞬間に空気が変わるのがわかるんです。この家にいるだけで心が癒されますね」

と奥様。その言葉を受けて、

「年月がたつにつれ、深みや落ち着きがにじみ出てくるのが本物の素材。いい木造建築は、古くならず、深くなるものなんですよ」

と語るのは、この家を手がけた建築家の石出和博さん。北海道と横浜を拠点に、国産の無垢材で高級注文住宅を手がける会社「ハウジングオペレーションアーキテクト(HOP)」の代表です。実はこのHOP、木造住宅の設計や施工を行うと同時に、林野庁や北海道の支援を受け、原木の買い付けから製材、植林活動や天然林の保護活動まで行っているという、筋金入りの「木のプロ集団」。家具をつくる職人まで社内にかかっているのが特徴で、社内の大工たちを、法隆寺の宮大工として名を馳せた名工、故・西岡常一さんに弟子入りさせたという逸話もあるほどです。

「私、障子が大好きで。光の揺らぎや木の影が映るのを眺めているのが幸せなんです。だから理想は、モダンな旅館のような家」と笑う奥様も感嘆するほど、細く繊細に仕

上げられた格子や棧。これも、伝統の技術をもった職人が、建具や金具まで一貫して作りあげているからなのでしょう。

とはいえ、ベースはあくまで現代的な生活。

「お洒落に暮らしたいという夢もあって」

と、人気インテリアアデコレーターの橘田美幸さんにコーディネートを依頼。家具やアートから色彩計画までトータルに相談し、モダンで上品な空間に仕上げてもらったそうです。

さらにS邸には大きな見所が。リビングの障子を開けると、湖畔の林を移してきたように豊かな庭が広がります。手がけたのは、多

くの名庭をつくってきた庭師、「石正園」の平井孝幸さん。すっきりと立った杉の木や足元を流れる小川が、毎日眺めても飽きない光景をつくります。その庭に水を撒きながら、「私たちのテーマは、覚悟の家。でした」と言う奥様。住まいに求めたのは、仕事で多忙を極めるご主人が心から安らげること。子供を育て、家族の健康を守り、安心して住み続けられること。そのうえで、人生に楽しみをもたらしてくれること。

「ここで生活し、ここで人生を謳歌する。そういう覚悟を受け止めてくれる家ですね」

右ページ/日本建築の美しさを体現した空間に、シンプルモダンなインテリアが穏やかに調和する。
右上/庭を眺めながら料理できるアイランドキッチン。
左上/門から玄関へのアプローチは、「現実を忘れ、癒しの空間へと誘うための路地空間」と石出さん。
右下/「自然が身近に感じられるのがうれしい」と奥様。
左下/夜の庭から眺める住まいの姿は感動的。
●設計/石出和博/ハウジングオペレーションアーキテクト(HOP) ☎0120-55-2486
<http://www.hophouse.co.jp/>

